



うきうき こどもックル

季刊 第27号



2014年6月発行

～就任のご挨拶～

<事務長 江上 洋行>



4月から事務長としてコドモックルに着任しました江上です。

これまで北海道の職員として、道庁のほか、振興局や保健所などに勤務し、特にこの2年間は感染症や難病、がんなどの成人病（小児がんを含みます。）などの疾病対策に関わってきましたが、コドモックルのような施設は初めてであり、今は見聞きすること全てが新しい経験です。

今、日本は、社会保障制度改革により子育ての面に関しても、消費税を財源に、保育制度の量や質の拡充のほか、まだ詳細は決まっていますが、難病の子どもさんに対する小児慢性特定疾患治療研究事業の対象疾患が拡充されようとしています。このような改革の流れの中、当コドモックルも、道民の方々の一層の信頼と安心が得られる施設となるよう努力していかねばならないと考えています。廊下などで顔を見かけましたら、声をかけてください。よろしくお願いいたします。

<周産期母子医療センター長 浅沼 秀臣>



4月から特定機能周産期母子医療センター長に着任しました。私は平成22年4月に苫小牧市立病院からコドモックル NICU に赴任となりましたが、実は、平成15年に苫小牧に赴任する以前は、コドモックルの前身である小児保健センター（銭函）のNICUで計5年ほど勤務させていただいておりました。その際に、前々周産期母子医療センター長である新飯田先生に新生児医療の手ほどきを受けました。再度コドモックルに戻ってくることができ、しかも、新飯田先生から引き継いだ職務につくことができ大変光栄に思っております。

現在の新生児医療体制は、以前、私が小児保健センターにいた時分とは大きく様変わりしました。胎児診断が進歩したために胎児のうちにお母さんを搬送し、NICUのある病院で分娩するという、より安全な方法が主流となりました。しかし、当センターの産科は、世の「産科医不足」の影響を受け、昼夜問わず分娩ができるだけの産科医の人員が未だ充足されていません。産科医の体制が整うまでは札幌医科大学産科と密に連絡を取り合っ、病気の赤ちゃんにとってできるだけ安全な方法で素早く治療開始ができるようなシステムを構築しております。

当センターに入院する赤ちゃんとお家族は、治療のために、生後まもなくから離ればなれになってしまう状況は避けられないところですが、我々スタッフ一同はファミリーセンタードケア（Family-Centered Care：こどもがこどもらしく、家族が家族らしく過ごせるような家族中心のケアをお手伝いすること）の実現を目標に据えた新生児医療をめざしております。

～子どもが経験を増やしていくためには～

総合発達支援センター長 才野 均（小児精神科）

子どもは乳児期の後半ころから、さまざまなおもちゃをながめたり、触ったり、なめたり、いろいろな遊び方をするようになります。経験がどんどん増えていくわけです。これは、もちろん、身体の成長や神経系の発達に支えられてできるようになるのですが、そればかりでは十分ではありません。

「この世はだいじょうぶだ」という「安心感」と、「ぼく（わたし）はできるんだ」という「能動性」といわれる心の機能が重要といわれています。この「安心感」と「能動性」はいかにして身につくのでしょうか。ものごとが変化することがわかってきた4ヶ月ころ、大人の顔をみると赤ちゃんは笑いかけます。大人は笑いかえし、赤ちゃんを楽しませ、いっしょに大笑いします。このかわりには、赤ちゃんにとっては、自分の微笑みが相手を笑わせ、自分と自分のまわりとを、安心感と喜びに満ちた状態へと変えた、という能動的な体験です。このような、大人とのかかわりを通して、子どもは「安心感」と「能動性」を身につけていくのです。そして、この「安心感」と「能動性」は、病気や障害をもつ子の中には時間がかかる子もいますが、どんな子どもでも、大人の手で育てていくことができると思います。私たちは、さまざまな病気や障害のお子さんが、大人とのかかわりの中で「安心感」と「能動性」を身につけ、経験を増やしていけるようお手伝いしていきたいと考えています。

☆新任医師紹介☆

	医師名	診療科	得意分野	趣味	ひとこと
	柴森 康介	泌尿器科	泌尿器科全般	テニス、キャンプ	子供達の為に、 一生懸命 頑張りたいと 思います。 よろしくお願いします。
	小路 弘晃	リハ科整形	整形一般 外傷 スポーツ	サッカー、フットサル	皆様のお役に 立てるように がんばります よろしくお願いします いたします
	新谷 紀享	小児科		ランニング、将棋	まだまだ未熟者ですが、 少しでも多くのことに 貢献できるようにがんばって いきますので、よろしく お願いします
	水野 絵里	麻酔科	麻酔科一般	スキー、ランニング	患者さま、ご家族の方が 安心して麻酔がうけられる よう努力していきたいと 思います。 よろしくお願いします
	西田 剛士	小児科	小児科全般	サッカー	専門性の高い施設で、 貴重な機会と思って おります。 貢献できるように 頑張ります
	大森 義範	脳神経外科	脳神経外科全般	登山、ジョギング	丁寧かつわかりやすい 説明を心がけたいと 思います。 お気軽に話しかけて ください。
	茶木 友浩	麻酔科		食べること、ショッピング	子どもたちに 元気をもらって、 楽しく働ければと 思います よろしくお願いします
	長屋 朋典	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科全般	ダーツ	患者さんご家族の 力となれるよう 一生懸命がんばり ますので、 よろしくお願いします いたします
	堀 大紀	後期研修医	小児科一般	バスケット、スラムダンク	半年間という短い期間 ですが、たくさん学んでお子さ んの 手助けが少しでも出来るように 頑張っていきたいです。 よろしくお願いします

〒006-0041 札幌市手稲区金山1条1丁目240番6

北海道立子ども総合医療・療育センター

(コドモックル) Tel. 011-691-5696